

令和3年度 地域活性化活動助成事業報告書

大道人形浄瑠璃を活用した「ふるさと学習」の実施と生徒による地域貢献活動

防府市立大道中学校 校長 原田 竜臣
大道人形浄瑠璃保存会 会長 川本 禮子

1 はじめに

本校は、防府市西部に位置する生徒数95名、各学年1クラスと特別支援学級1クラスの小規模校である。校区は、農村地帯であるが、JR大道駅の周辺に、大道小学校、大道中学校、県立防府西高等学校、高川学園中学・高校、山口短期大学があり、文教地区としても知られている。また、校区には、複数の神社や寺や文化財、伝統芸能がある。中でも、小俣神社の大歳祭で行われる神事の1つである「笑い講」は有名である。伝統芸能には、「国府の節」「旦の十二の舞」「代神楽」「大道文楽（人形浄瑠璃）」がある。各地区や保存会によって受け継がれていたが、しだいに人数が減ってきている現状にある。

「大道文楽（人形浄瑠璃）」は、江戸時代の末期、すなわち幕末から明治初期頃から行われていたと考えられている。各地区に人形浄瑠璃の講があり、昭和30年頃までは追善供養等で上演されていた。昭和57年にかしらが発見されたのを機に大道文楽同好会ができた。その後、大道人形浄瑠璃保存会が組織された。

本校では、平成29年度から大道人形浄瑠璃保存会の方による指導をお願いしている。この取組をすることで、伝統芸能に込められた思いや継承されている方の思いにふれ、生徒の成長につながり、地域を元気にすることにつながっている。

地域貢献活動も生徒主体で取り組んでおり、「出張あいさつ運動」や「地域清掃」等を実施している。

2 活動の概要

(1) 大道人形浄瑠璃を活用した「ふるさと学習」

今年度は、3年生が、大道人形浄瑠璃保存会の会長である川本禮子様から指導を受け、文化祭での発表をすることで、伝統文化の継承と表現力の育成を図った。



○文化祭

10月30日（土）に文化祭を開催した。当日までに講師との口承による10時間の練習を行った。

大道の人形は、串人形で、その人形を二人でつかう。外題は、人形2体を使う「壺阪靈験記」を上演した。人形浄瑠璃は、浄瑠璃を語る大夫、三味線弾き、人形遣いから構成され、舞台、人形、見台、小道具からなる。今回は、川本様が、三味線弾きをし、生徒が大夫と人形遣いをした。大夫は、登場人物の心が伝わるよう何度も何度も

三味線とあわせながら、抑揚をつけて語る練習をした。人形遣いも、二人で人形を支えながら、口を開けたり、人形の手を浄瑠璃に合わせて動かすことを息が合うまで練習した。練習に励み、全員が心を一つにして見事に演じた。

内容が古典的で難しいため、人形浄瑠璃の発表の前には、現代語での劇をした。生徒が内容を理解し、表現力豊かに演じる姿に、講師の方も喜んでおられた。

聴衆にわかりやすく工夫して伝統芸能を発表する方法を考え、本番ではたくさんの人の前で緊張しながらも披露することができ、発信力と表現力を高めることができた。



(2) 生徒による地域貢献活動

○出張あいさつ運動

生徒会が主体となり、今年度は大道小学校と防府西高校とともに活動した。全校生徒に呼びかけてボランティアを募集し、2/3の生徒が参加した。大道駅前と国道2号線小俣交差点周辺と大道小学校前で実施した。コロナ禍ではあるが、お互いの距離をとったり横断幕をつくったりと工夫して取り組んだ。

地域の方から、「登下校中の中学生から『お疲れ様です!』『ご苦労様です!』など声をかけてくれる。男女問わず自転車通学なのにわざわざ挨拶してくれてうれしい。」という感想をいただいた。校内でも「あいさつ運動」を続けることで、地域を元気にする中学生が育っている。

○清掃活動

生徒が地域での清掃場所を決め、ボランティアを募集して放課後に活動した。今年度は、「小俣神社」と「小俣の地下道」の清掃を行った。地域貢献活動では、縦割りでグループを組むので、清掃のやり方やコツを2・3年生が1年生に教える場面もあった。

3 おわりに

本校の人形浄瑠璃は、総合的な学習の年間計画に位置づけている。小学校で経験しているため、短期間の練習で文化祭での上演ができています。

大道中学校区でのめざす15歳像「心豊かに地域にかかわり、地域の一員として行動できる子」～笑顔であいさつ、やさしい言葉、地域を愛し、地域の一員として行動できる子どもの育成～の実現に向けて、コロナ禍でも知恵と工夫で実践することができた。

ただ、指導者の高齢化や人形等の老朽化が課題である。今回の山口県教育会の「地域活性化活動奨励事業」の支援により、人形の修復ができたおかげで、伝統芸能の継承をすることができ深く感謝申し上げたい。